ICT活用授業モデル（デザイン編）

コミュニケーションの力を育てる

特別支援学校 | 【自立活動】 | 単元名【視線入力機器で自分の気持ちを表現しよう】

主体的・対話的で深い学びのポイント	ICT機器等を活用し、体験的な活動を促したり、意思の表出を補助したりすることにより、主体的に学習に取り組むことができる。
ICT活用のポイント	訪問教育を受けている児童が、クラウドを介して在校の児童の校外学習における写真を共有することで、興味・関心を高めたり、意思の表出を可能にすることで学習への意欲を高めたりすることができる。

使用するICT機器	視線入力機器、ＰＣ等	使用するアプリ・クラウドサービス等	EyeMoT3D、Googleドライブ
クラウドの活用	□教材の配布・回収等　☑資料等の共有 □生徒の学習状況の把握　□その他（　　）		

本時のねらい：在校の児童が撮影した校外学習の写真から好きな写真を選び、感想を入力することができる。

	主な学習活動（学習場面）	ＩＣＴの活用・留意点等	評価
導入	○本時の目標を確認する ○前時の内容を振り返る 個別	パワーポイントを使い、本時の目標を文字とイラストで提示する。 ICT機器 ・視線入力機器等の設置や安定した姿勢を保持できるよう配慮する。 視線入力訓練ソフトEyeMoT3Dにより視線入力機器の使い方を復習する。 指針3　指針5	
展開	○在校の児童が撮影した校外学習の写真を見る ○好きな写真を選ぶ ○写真の感想を入力する ○作成物を保存する	Googleドライブにアクセスし、在校の友達が撮影した水族館の写真をダウンロードする。 クラウド パソコン画面で複数の写真を見ながら水族館の様子を間接的に観察する。 指針3　ICT機器 ・視線入力機器により、表示された複数枚の写真の中から好きな写真を選択する。 ・選択した写真を、パワーポイントで作成した「校外学習の記録」の様式に貼り付け、視線入力機器で感想を入力する。 指針5　ICT機器 作成した「校外学習の記録」をGoogleドライブに保存する。 クラウド	ここで評価 ・好きな写真を選び、相手に伝えている。 ・選んだ写真を見て感想を入力している。
終末	○本時の振り返り 個別	作成した「校外学習の記録」を確認し、次の学習で在校の友達に見せることを伝える。	

※ 表内の指針１～６は、「ICT活用授業指針」８ページにあるICT活用授業の目指す姿１～６を表しています。
※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。
※ 評価の観点　【知】＝知識・技能　【思】＝思考・判断・表現　【態】＝主体的に学習に取り組む態度